週刊 愛知民報
2021年 2月21日
第2526号

発行所 愛知民報社
〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目12番25号
愛知あかつき会館内
☎(052) 251-2925 FAX(052) 261-6063
定価 月 400円 郵送料168円 1部 100円
毎週日曜日発行（第5日曜日は休刊）
1966年7月31日第三種郵便物認可

共産党 総選挙躍進特別期間

「愛知のてっぺん」に

比例躍進に集中

（左から）長内、もとむら、しまづの各東海比例候補

愛知の日本共産党組織は、もとむら伸子（現）、しまづ幸広（前）、長内史子（新）の比例東海候補を先頭に「総選挙躍進、1千万対話・党勢拡大特別期間」の取り組みに全力をあげています。総選挙は、10月21日の衆議院の任期満了までに必ずあります。4月末までの「特別期間」では、政党の力関係とその消長が最も鋭くあらわれる比例代表選挙での躍進の土台づくりに集中的に力を入れます。県内各地の宣伝・対話に激励が寄せられ、若い世代が入党しています。

宣伝キャラバン 豊根村

日本共産党愛知県委員会は年内にある総選挙での同党躍進と野党共闘勝利で政権交代・野党連合政権樹立をめざして県内の山間部や離島での宣伝活動をすすめています。

■ ■

安間ひろこ豊川市議・愛知14区予定候補と浅尾もとこ東栄町議は今月6日、党議席空白の豊根村に入り、宣伝カーから総選挙支援を訴えました。

豊根村は、奥三河山間部にあり、人口は約千人。県内最少です。

日本共産党への支持を呼びかける安間ひろこ衆院愛知14区予定候補・豊川市議＝6日、北設楽郡豊根村（浅尾もとこ東栄町議提供）

反応の良さに驚く

村内に茶臼山高原スキー場があり「愛知のてっぺん」と呼ばれています。

愛知民報2月14日付掲載の「続愛知・日本共産党物語」で、同村では1971年参院選の得票が前回に比べ4・6倍に躍進したことが紹介されています。

■ ■

豊根村の各所で、演説する安間候補に通り過ぎる車が何台も続けて手を振ってくれるほどの反応良さ。

家から出てきて演説を聞いていた村民は、「菅政権はパッとしない。コロナも後手。共産党に自民党と肩を並べるくらいになってほしい」と期待を寄せました。

豊根村議会には1987年から1期、共産党議席がありましたが、その後空白です。商店主は「村議会に1人は共産党議員がほしい。わしは自民党員だが、なんでも賛成ではだめ」と訴えました。

豊根村に隣接する東栄町で一昨年初当選した浅尾もとこ町議は「豊根村はとても反応が良い。また行きたい」と語っています。

■ ■

総選挙躍進全県宣伝キャラバンは27日西尾市の佐久島に、28日は南知多町の日間賀島、篠島に渡ります。しまづ幸広東海比例候補が訴えます。

東三地区 読者・後援会員総当たり 対話アンケート

同党東三地区委員会がおこなった「赤旗」読者、後援会員総当たりの対話アンケートの返信を紹介します。

◇

▷政権交代にがんばってほしい。核兵器禁止条約の批准、格差是正、弱い立場の人たちのための政治をぜひ実現してほしい。

▷考え方はきちんとしているし、好印象です。

▷僕の好きな坂本龍一や島田雅彦さんも「赤旗」に登場してうれしかった。

▷他の野党と対話している状況に賛成します。ガンバレ。

▷企業献金がない分、資本に遠慮なく、庶民にとって優しい政治をしている印象。

▷政党の中で最も正しいことを主張している党。議席数が増えて強い力を持ってほしい。

▷大変頼れる党だと思います。お話の言葉をもう少しやさしく発していただければもっと国民に理解されると思います。

若い世代の入党相次ぐ

総選挙躍進、政権交代をめざす取り組みに日本共産党への若い世代の入党が続いています。

■ ■

尾張南部地区の大治町ではこのほど、36歳の男性労働者が入党しました。

この人は、吉原経夫町議に労働問題を相談。昨年12月から、「赤旗」日曜版読者になりました。大治支部が昨年暮れにおこなった、しまづ幸広比例東海候補を迎えた「集い」に参加しました。その後、「入党して、いろいろ勉強したい」と、入党を申し込みました。

街頭で青年と対話する（左から）長内、もとむらの各氏＝2020年12月24日、名古屋市

吉原町議は「今の若い世代に、党への偏見はない。訴えにこたえて、ストレートに入党を考えてくれました」と語っています。

■ ■

名古屋市中川区の常磐地域の党支部は30代の女性を党に迎えました。

この人は、「赤旗」日曜版読者で、1月末に長内史子比例東海候補が出席した「集い」に参加し、ジェンダー平等の話に感激しました。

後日、党支部長と江上博之市議が働きかけて、日本共産党創立記念講演のDVDを視聴し、入党よびかけパンフレットを読み合わせたところ、入党を決意しました。

■ ■

名古屋市熱田区委員会は昨年1月、第28回党大会の決定にこたえ「世代継承チーム」を立ち上げました。同大会は、若い世代での党勢倍加や日本民主青年同盟の建設を同党の世代的継承の重要課題として強調しています。熱田区世代継承チームの平均年齢は66歳。後継者づくりは切実な課題です。

昨年はまず、区内にある大学や高校の門前で宣伝やコロナ禍の生活アンケートに取り組みました。そのなかで学生の民青加盟が広がり、高校の民青班ができました。

ネットで「赤旗」電子版の購読を申し込んだ青年が昨年9月、武田良介参院議員を迎えた「集い」に参加し入党しました。

また、今年1月、長内史子東海比例候補が出席した「集い」に、チラシを見た30代女性が参加し入党を決意。この人は、市政アンケートの回答者でした。

同党名古屋南西地区の党会議で、熱田区世代継承チームの地区役員は「いまの政治を変えたいと思っている青年は多くいます。確信をもって世代的継承に取り組んでいきましょう」と訴えました。